

孤独死16件

高齢住民38%

東日本大震災の災害公営住宅（復興住宅）に関する読売新聞の調査で、誰にもみとられずに死亡する「孤独死」が16件あることがわかった。自宅を再建できない被災者向けの住宅であり、65歳以上の割合（高齢化率）は38%。今後、割合が上昇し、持病などを悪化させるケースが増える可能性もある。どう見守り、つながりを深めていくか。被災地の模索が続いている。

孤独死は宮城県9人、岩手県5人、福島県2人で、12人は2013年9月～今年10月のデータ

率	平均の高齢化率
%	30.5%
%	24.8%
%	28.5%

自治体見守り模索

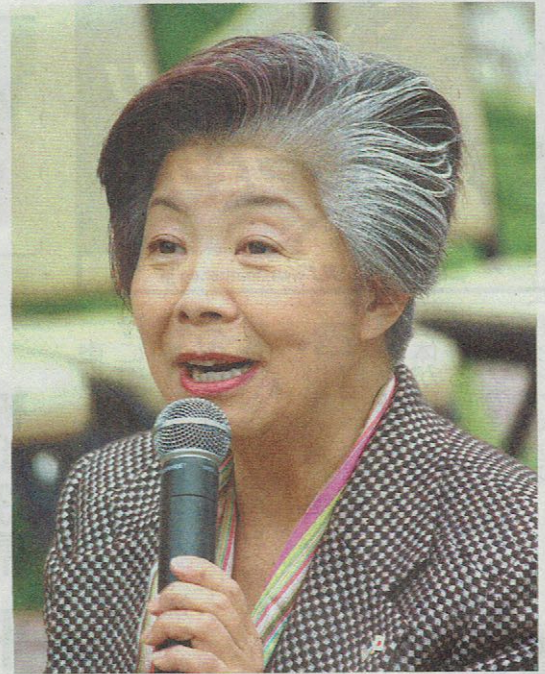
震災5年

年1月に見つかった。少なくとも2人は病死だった。宮城県東松島市の復興住宅では昨年11月、70歳の男性が遺体で見えられた。死後数日とみられる。

一人暮らしで昼間から酒を飲み、近所付き合いはほとんどなかった。市社会福祉協議会の担当者は「持病があったり、要介護度が高かったりする人を優先して見守り活動をしている。男性も対象だったが、優先度は低かった」と話す。

3人の孤独死が起きた仙台市の市社会福祉協議会でも、優先順位を付けて見守り活動をしているが、訪問は多くても月に1度程度。担当者は「顔を合わせてくれない入居者もあり、限界

家賃低減終了で



ロサンゼルスで震災行事を続ける

うのうら まさこ さん 61 鵜浦 真紗子

米ロサンゼルスで6日から11日まで、東日本大震災の犠牲者追悼集会「Love to Nippon」など震災を考えるイベントを展開している。開催は5年連続で、「古里にいない分、古里を思う気持ちが強くなる」と語る。

顔

被災し、避難先の商店の屋上から津波にのまれる街を見て泣き叫んだ。28時間後に救出され、「九死に一生を得た自分には何かをする使命がある」と確信した。ロスでは1994年のノースリッジ地震で建物数万棟が壊れ、50人以上が犠牲となった。それにもかかわらず、住民の多くは無防備に暮らす。「私の経験を通じて危機意識を高めてもらえない

か」。在留邦人や警察・消防などに賛同の輪が広がり、イベントが定着した。次の5年は「日米で防災意識を共有する時期」。大船渡市の消防署と、同市で救助活動を行ったロス消防局との合同訓練の実施を模索する。まず、今年はロスで両消防隊員の顔合わせを実現させた。「小さな取り組みだけど、少しずつ広げたい」（ロサンゼルス支局 田原徳容、写真も）

支援員などの費
れる「被災者支
金」（220億
支援強化を打ち
自治体も取り
屋タイプの復

いぎもの住まいの マメ知識

何もし
オス
メス
ヒヨ

津波避難施設 7 県230基

社調査

